

「キャッシュレス社会に潜む危険」 ～これからの社会を豊かにするために～

1. 学年・組 6年南組 32名

2. 目指す子供の姿

互いの考えを認め合う、そして学びを深め合える子供
事の善悪を自身で正しく判断し、行動できる子供

3. 本時における「子供とつくる学び」

これまでの安全科の学習では、多くの児童が意欲的に取り組んできた。また、‘わかっているけど、できない’を‘わかっているから、できる’へと行動変容を促すことができるような手立てを考えながら学習を進めてきた。

本單元における「子供とつくる学び」の課題は、児童がいかにして自分事として考え、課題意識を持つことができるかどうかであると考えている。児童は実生活に関わる内容や自身が興味を持つ内容を扱うときには、特に学習に意欲的になっていた。本單元では、キャッシュレス社会について考える。多くの児童は電車通学をし、既にキャッシュレス決済を行い、生活を行っているが、他のキャッシュレス決済については、利用していない児童が多いのではないかと考える。しかし、これからの社会の流れや児童の行動範囲、生活行動を考えた際、利用する頻度は高くなってくると考えられる。そこで、これからの自分の生活により関わってくるであろうキャッシュレス社会について、自分事として考えるきっかけとなるような学習としたい。

4. 「子供とつくる学び」を実現するための手立て

本時で「子供とつくる学び」を実現させていくためには、いかにして「自分事」として考えさせることができるかが重要であると考えている。電車通学でキャッシュレス決済をしている児童が多いとはいえ、他のキャッシュレス決済については、まだまだ経験が少ないものと思われる。親が使っていたり、テレビを見たりして情報を得てはいるが自分事としては捉えられていない部分も多いと思われる。

これまでの児童の実態として、実際の調査結果や事件、報道等に興味を示すことが多かった。そこで、本時では自分事として捉えやすくするために、調査結果や実際に起こった事件を扱うこととする。キャッシュレス決済の不正利用による事件、QRコード詐欺などである。また、キャッシュレス社会についてのアンケート調査結果も使用する。キャッシュレス社会に反対する人の意見にはどのような意見があるのかを知り、そこから、安全に利用するための方法を考えさせていく学習活動を考えている。

自分が体験していないにしても、世間ではこういう調査結果が出ているということや、実際にこういう問題が起こっている、ということを示唆することで児童は興味を示し、自分事として捉え、問題意識を持ちやすくなるものと考えている。

5. 教材について

本校は校区が広いので、電車通学をしている児童が多く、彼らは既にキャッシュレス決済を利用している。また、中学生になると私立中学校へ進学し、よりキャッシュレス決済を利用する児童が増えると思われる。ゲームで課金をしているという話を耳にすることもある。社会的にもより一層キャッシュレス社会が進むであろうこと、そして春休みを迎え、中学校に進学し、キャッシュレス決済の利用率が挙がるであろう児童を対象に、キャッシュレス社会について考える機会を設定した。

始めにも述べた通り、多くの児童は既にキャッシュレス決済を利用している。しかしそのほとんどは交通系ICカードだと思われる。他にもテレホンカードやQUOカード、インターネットでの買い物、ゲームでの課金などキャッシュレス決済は多岐に渡っている。それらを自覚させることから授業を始める。次に、今後、よりキャッシュレス社会が進むという根拠を示し、キャッシュレス社会について考える必要性を持たせる。偏った情報だけではなく、キャッシュレス社会のメリットとデメリットの両面について考えさせ、その上で安全な利用の仕方について考えさせたい。そうすることがこれからのキャッシュレス社会を豊かに生きていくことにつながるものと考えている。

6. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本のキャッシュレス社会の現状について知るとともに、キャッシュレス決済を行う際のメリットとデメリットについて理解している。	キャッシュレス社会のメリットとデメリットについて、また、キャッシュレス決済の安全な利用の仕方について考え、表現している。	キャッシュレス社会における問題点について解決しようとしている。

7. 単元計画

次	時	内容
1	1	キャッシュレス社会に潜む危険について知り、安全な利用の仕方について考える。 ★本時

8. 本時の目標

キャッシュレス社会に潜む危険について知り、安全な利用の仕方について考えることができる。
【思考・判断・表現】

9. 本時の展開

